

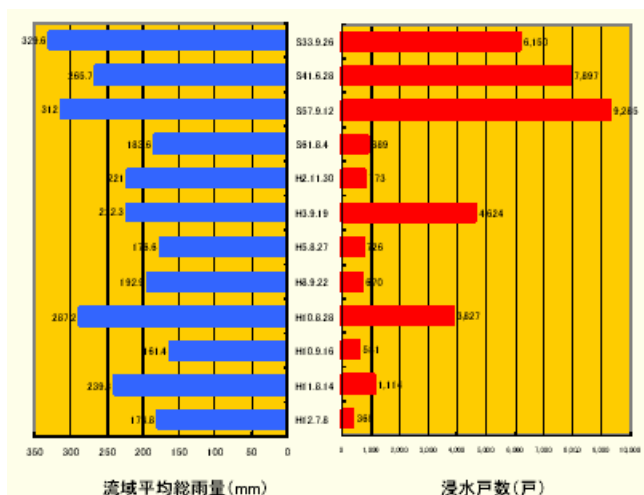
対 象		対策の内容	指導・実施主体
新規開発地			
大規模開発	1. 0ha以上	950m ³ /haの流出抑制	都・県
	1. 0ha～0. 1ha	500m ³ /haの流出抑制	都・県
小規模開発	0. 05ha～0. 1ha	500m ³ /haの流出抑制	
既存開発地			
学校・公園等		流域全体で625. 000m ³ /s	都・県・市・区・町

新河岸川総合治水対策特定河川事業の効果

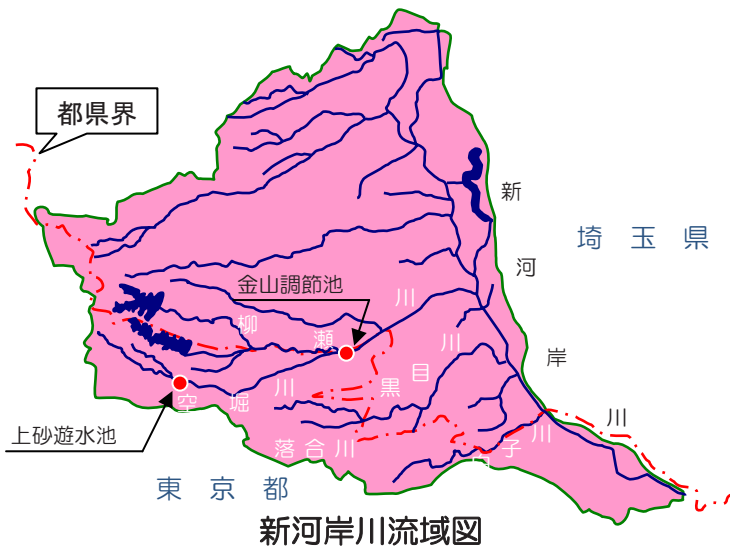


東京都では、下流埼玉県側の整備状況にあわせて、調節池・遊水池等により下流側への流出を抑制しながら、護岸の整備を進めることにより、流域全体としての安全度向上を図っています。

流域平均総雨量と浸水戸数



▲流域内の永年に渡る治水対策により、浸水戸数は大きく減少



新河岸川流域図

流域の主な諸元

流域面積 : 411km²
 本川延長 : 33.7km
 関連区市町村 : 東京 3区8市1町
 埼玉 11市3町
 市街化率 : 48%(平成12年度末)

空堀川上砂遊水池



▲平成12年9月2日台風14号における流入状況

空堀川では、先行的に整備した新河川部分を河道内調節池として活用することにより、河道整備が行われるまでに時間を要する中・上流域において、水害を軽減を図っている。

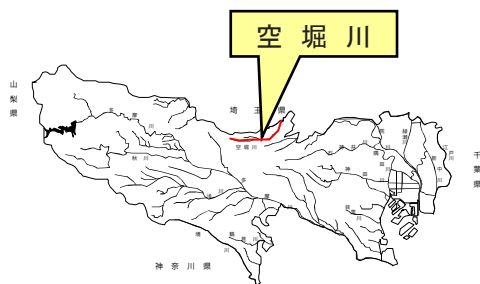
柳瀬川では、金山調節池を整備することにより、下流埼玉県側への流出を抑制しながら、上流側の護岸整備を進めている。

金山調節池は、豊富な地下からの湧水があることから、多様な動植物の生息に恵まれた環境である。この空間は、開発が進行している流域内では貴重なビオトープとして、市民に親しまれている。

柳瀬川金山調節池全景



新河岸川総合治水対策特定河川事業の効果



新河岸川の支川であり、東京都の多摩北部を流れる空堀川は、現況河道が著しく狭く、浸水被害が多発しています。

現在、西武多摩湖線橋梁架替などを鋭意進めており、整備完了時には、一般資産被害だけでなく、近接する新青梅街道などの主要幹線道路の冠水回数が大幅に減少することにより、通行止めなどによる道路交通への影響も軽減されます。

